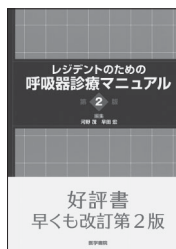


書評

[評者]

西村正治

北大大学院教授・呼吸器内科学



レジデントのための 呼吸器診療マニュアル 第2版

河野 茂, 早田 宏 編

●A5 頁404 2014年

定価：本体4,700円＋税

[ISBN978-4-260-01865-4]医学書院刊

本書は2008年3月に初版が上梓され、2014年1月に改訂第2版として発行された。初版の序に「医学は再び長崎から」とあるように、著者は長崎大病院第二内科出身の諸先生による。文字通りレジデントのためのマニュアル本であるが、ただのマニュアル本と言うなかれ！その内容の充実ぶりは素晴らしく実に使いやすい。目次は、「A 疾患・症状のマネジメント」「B チーム医療のために」「C 基本的な検査のポイント」「D 治療のアプローチ」「E 臨床に役立つエッセンス」と章立てされている。その内容を個々に見ると実にうまく工夫されている。

呼吸器疾患を順に並べたマニュアル本とは異なり、「A 疾患・症状のマネジメント」では、患者の主観的訴え、検査上の客観的症候、そして、市中肺炎、インフルエンザ、喘息、COPDなどのいわゆる common disease がA1～A22までバランス良く並んでいる。診療に応じて知りたい項目が選びやすい。個々の項目は実際の診療の流れに沿ってポイントがわかりやすく解説されている。「B チーム医療のために」では、今回の改訂で加筆された「他科から術前評価を依頼された際の

注意」「妊婦の呼吸器疾患を診療するときの注意」「Infection control team」などの項が並び、この本の際立った特徴となっている。

長崎大第二内科は感染症学でわが国をリードしている教室であるが、それを反映して、「D 治療のアプローチ」では特に抗菌薬の使い方に関するまとめが出色の出来栄である。呼吸器専門医が読んでも知識の整理に役立つことだろう。

最後の「E 臨床に役立つエッセンス」もまたこの著書の特徴を余すところなく伝えている「インフォームド・コンセント」の次に、「悪い知らせを伝える一癌の告知の場合」という項目がある。レジデントは一度この項目に目を通すと、知識を伝達することだけが告知ではないと気付くことだろう。最後の項目「ここある医療を求めて一患者そして家族・地域社会へ」と併せて読んでみて、私はこの著者らの強い想いを感じたのである。良き臨床医とはこうあるべきだと……。レジデントばかりではなく、呼吸器診療に携わる機会のある一般内科医にもお薦めの一冊である。